

福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（1月）

留学先：カセサート大学

氏名：土田郁子

秋セメスター分の期末テストを終えてから1ヶ月弱空いて、ようやく春セメスターが始まりました。全学部に通じて秋セメに比べて今期から留学してくる学生はとても少なく、経済学部内で前期60人だったのに対して、今期は30人もいません。寮に住まう学生の数も減り、なんだか寂しい雰囲気です。新しいセメスターが始まりました。新しく来た留学生たちは半年前の私たちのように、何事にもアクティブで、新しくできた友達と色々な場所へかけて行きます。今期も友達をつくろうと意気込んでいましたが、彼らのフレッシュなテンションに気持ちがついていけず、いまだに友達をつくることができていません。

履修登録期間を経て、授業が本格的に始まれば同じ授業を取っている学生たちと仲良くなれるだろうと思いました。最終的に今期は、”Economic development”と”Economic international integration”という4年生向けの授業を2つ、2年生向けの”Intro to natural resources & environmental economics”を1つだけ取ることにしました。この2年生向けの授業は、内容は難しいながらも一番興味が沸いた授業です。しかし、2年生の必修授業ということで元気なタイ人学生が多く、心細い中で毎回ひっそりやり過ごしています。あとの4年生向けの2つの授業は、10人弱くらいしか取っていないため落ち着いて授業に取り組むことができます。こちらも授業は難しい内容ですが、雰囲気が好きなのでなんとかついていけるように頑張っていこうと思いました。肝心の友達なのですが、日本人、タイ人、ドイツ人それぞれ1人か2人ずつとクラス内で知り合うことができましたが、まだまだよそよそしく友達と呼ぶには時間がかかりそうです。もしかしたら、今期は一緒にご飯を食べに行けるような友達はできないかもしれないと感じ、現在学校生活に対するモチベーションが低いです。

授業が一緒の日本人は2人いて、彼女たちはとても英語が堪能です。私が理解していなかった部分や聞き取れなかった英語を、彼女たちは理解することができますし、意見を交換するときにもきれいで流暢な英語で発言します。私は留学を通して、あまり英語の上達を実感できていないので彼女たちをみると、私は同じ交換留学生として自分の成長のしなさとスキルの低さで落ち込みます。先に報告したとおり、今期は友達自体がない上に授業数も減ったため、英語を話す機会も少ないです。そんな中、部屋に小さいゴキブリが大量発生したショックと1週間の学祭休みを1人で過ごす虚しさを想像して、冷静さを欠いて一時帰国を決めました。自ら異文化交流や新しい挑戦の機会を削っていく様に、後悔しました。

しかし大学内で久しぶりと声をかけてもらえたり、もうすでに留学を終えている同期たちの話を聞いたりするうちに、もっと頑張らなければとしみじみ思いました。

今月は1年生がPBLでタイに来ます。半年タイに留学している身とは言え、彼らに何かアドバイスできるくらいの経験や成長をしたわけではないので、彼らと同じ立場でタイの授業や見学にいくつか参加させてもらう予定です。この時期に合わせて、他の東南アジアに留学している同期たちも来るので、いろいろ話したりして残り3ヶ月の留學生活のモチベーションアップにつながればと思います。

*今月撮った写真があまりにも少ないため、しょうもない写真ですがエピソードと一緒に載せさせていただきます。



←上空から見た久しぶりの日本（愛知県）。

山があり、澄んだ川が流れ、整った田んぼと住居のスペース割がとても美しく、発展しながらも環境を意識しているところは、やはり洗礼されているなと感じました。機上で朝日も拝め、とてもいい祖国入りでした。降りた後、周りが日本人だらけというだけで安心感を覚えました。



←成田空港からバンコクへ戻る最期の時に食べた味噌ラーメン。

久しぶりの本場の日本食はどれも美味しく、帰国中で4kg太りました。しかし、日本にいる間はタイ料理が少し恋しくなりました。なんでも離れてから良さに気付くのだなと思いました。カセサート大学で買ったオリジナルジャンパーを着ていたら、同じ便のタイ人に声をかけられました。なんと、その人はカセサート大学の卒業生でした。その時は短い間でしたが、比較的流暢に英語を喋っていました。